

仕 様 書

調達 要求 番号	58S41A10 091	作成年月日	令和7年10月9日
		作成部隊	団3科 工事班
		作成者 階級氏名	1曹 山下 繁義
<p>1 件 名 地下探査能力保有等に係る検証役務</p> <p>2 目 的 最新の地下探査機（民生品）を活用し、地下情報の探査能力及び作成したデジタルデータ活用の可能性を検証する。</p> <p>3 場 所 霧島演習場（標柱台東側）</p> <p>4 検証内容 (1) 各地下探査機の岩・水の探査能力の可否、精度、最大探査震度および探査速度 (2) 地下デジタルデータの処理要領及びデジタル形式 (3) 器材搬入から調査まで業者側で実施する。</p> <p>5 検証要領 (1) 地下探査機の探査能力の可否岩及び地下水の存在が予想される2か所の地域において、役務業者による地下探査を実施して岩及び水の探査の可否を確認 (2) 上記検証を反復して可否、精度、探知深度及び探知速度に係るデータの取得 (3) 地下デジタルデータ処理要領を業者が実施するデータ作成要領を官側が研修 (4) 業者とのデータ作成、データの互換性、遠隔操作、自動・自律化等にかかる意見交換</p> <p>6 使用機材要望性能 地中レーダを用いて、事前に設定した測線に沿ってレーダデータを取得する。使用する地中レーダは以下に示す性能と同等以上のものとする。 (1) ハンディ型地中レーダ（深査深度 5.0m）又は同等品以上のものとする。 (2) 探査方式が電磁波レーダ方式の非破壊方式であり、計測地点に一定時間以上滞留せずデータを得られるもの。 (3) 探査精度は、水平位置が±10cm程度、深度位置が深度1m以浅の場合は±10cm程度、深度1m以深の場合はその位置の深度±10%程度であるもの。</p>			

- (4) レーダデータについては、平面・縦断・横断の各データを連続して表示可能な3次元データ化処理を行えるものとする。
- (5) 検証箇所が演習場内であることから不整地でも円滑に調査可能なクローラー方式の探査機材を使用すること。

7 成果品の作成

上記検証項目に対する結果を取りまとめた報告書を業者側が作成するものとする。
なお、期限は令和 8 年 1 月 3 0 日（金）までとする。

8 使用期間

令和 7 年 1 2 月 1 日（月）～同年 1 2 月 3 日（水）

9 注意事項

器材に損傷等があった場合は、業者側が全ての責任を負うものとする。

その他調整事項は工事班長 小森 3 佐（内線 2 3 5）との調整による。